＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

事業所番号	4672200120
法人名	有限会社　敬徳
事業所名	グループホーム　かいもん
訪問調査日	平成　22　年　3　月　17　日
評価確定日	平成　22　年　4　月　3　日
評価機関名	特定非営利活動法人　社会保障制度活用支援協会

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	4672200120
法人名	有限会社 敬徳
事業所名	グループホームかいもん
所在地	鹿児島県指宿市開聞町十町1330番地 （電 話）0993-27-2110

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年3月17日	評価確定日	平成22年4月3日

【情報提供票より】(22年 2月 28日事業所記入)

（1）組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 人, 常勤換算	16 人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	30,000 円		光熱費（月額）	9,000 円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	― 円
	または1日当たり	1150 円		

（4）利用者の概要(2月 28日現在)

利用者人数		18 名	男性	8 名	女性 10 名
要介護1		6 名	要介護2	7 名	
要介護3		5 名	要介護4	0 名	
要介護5		0 名	要支援2	0 名	
年齢	平均	84.7 歳	最低	65 歳	最高 98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人慈光会宮薗病院 開聞歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の故郷の象徴である開聞岳が望める場所に「グループホームかいもん」がある。、昼食後、順番に歯磨きをする人、食器を下膳する人、食器を洗う人、テーブルを拭く人、椅子を引いて掃除する人、洗濯物を職員と一緒に干す人、居間兼食堂・廊下を利用者と職員が、それぞれの目的・役割を持って行動している。1・2ユニットは、男性がほとんどのユニットと女性だけのユニットになっているが、食後の行動が、2ユニットとも同じ様に進行している。指示するのでなく職員が一緒に寄り添って支援している。利用者と職員の笑い声に全員が和まされ、家族もいつ来ても楽しそうに過ごしている利用者を見て安心しているとの声も多かった。

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価では改善課題はなかった。評価報告後、職員会議・運営推進会議で報告している。今後は家族への報告と目標達成計画を作り、職員会議・運営推進会議・家族会を利用して改善に取り組み、記録に残すことを勧めます。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価は、職員の声を聞いてまとめ上げている。自己評価の「取り組んでいきたい内容」が多く書かれ、事業所のサービスの向上への意欲が見られる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）

平成21年度は、市の職員が参加して年間6回開催している。事業所からの報告・市からの報告が行われている。会議の内容を充実させることに努めている。今後 外部評価の改善に役立つ運営推進会議になることを期待します。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）

家族の面会時に、意見・要望等聞くように努めている。家族からの意見・要望は、ケア会議で職員で話し合い運営に反映している。家族から意見を聞く機会を数多く作る工夫に期待します。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地元の方からの情報を貰い、地域の学校の運動会、枚聞神社・ふれあい公園での催し物等に参加し、地元の人々との交流に努めている。今後、災害時に、地域の協力を得られるよう働きかける事を望みます。

2.　評　価　結　果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成22年3月に職員で話し合い、「ご本人様と地域社会とのつながりを大切にします」「思いやりを持ってゆとりのあるチームケアを目指します」「本人らしく安心して笑顔で過ごせる環境作りを目指します」という理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は新しい理念を毎朝唱和して意識付けし、分かりやすく実践しやすい理念に日々取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の方からの情報を貰い、地域の学校の運動会、枚聞神社・ふれあい公園での催し物等に参加し、地元の人々との交流に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果は、職員と運営推進会議での報告に止まっている。今回の自己評価は、職員の声を聞いてまとめ上げている。自己評価の「取り組んでいきたい内容」が多く書かれ、事業所のサービスの向上への意欲が見られる。	○	自己評価の取り組みを記録に残すことを勧めます。外部評価結果・自己評価の改善点について、目標達成計画を作り、改善に取り組むことを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成21年度は、市の職員が参加して年間6回開催している。事業所からの報告・市からの報告が行われている。会議の内容を充実させることに努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議は必ず市の職員に出席してもらい、事業所の報告・アドバイスをもらっている。今後、地域のつながり等、市担当者と連携していく予定である。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	春と秋に[かいもん便り」を発行している。電話や面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態・職員の異動等を報告している。金銭管理は、していない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、意見・要望等聞くように努めている。家族からの意見・要望は、ケア会議で職員で話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年管理者の急病により管理者の交代があったが、ホーム長が管理者になり利用者・家族・職員からも不安なく継続ができたとの声があり、ダメージ無く交代が出来ている。2つのユニットの交流が多く、利用者はどちらのユニットの職員でも馴染みが出来ており異動によるダメージを防ぐ配慮ができている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の報告は、職員会議にて行い研修の共有は出来ている。新人・現任の従業者の研修の計画が作成されていない。	○	新人・現任の従業者の研修の計画を作成し、研修の実施記録を残すことを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流はあるが、これからは地域支援ネットワークを作り、交流に取り組んでいきたいと考えている。	○	職員が、同業者との交流・相互訪問などの活動を通じて、職員一人ひとりのサービスの質の向上に努めることを望みます。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の見学が多く、利用開始後に細かいアセスメントを取る様にしてケアプランを作り、利用者が徐々に馴染めるように家族・職員と相談しながらサービスをしている。一ヵ月後に必ずケアプランの見直しをしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来ることは、本人にまかせ職員はそれを手伝い見守りのケアをしている。昔ながらの料理など利用者に教わりながら一緒に作り、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を職員の利用者との会話・気付きの情報をケア会議で話し合い全員が把握している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員と毎月話し合い、モニタリングをしている。ケア会議で職員の気付きを話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始1ヶ月後には、必ず見直しをしている。定期的には6ヶ月毎に見直しをしているが、モニタリングは毎月行っている。対応できない変化が生じた場合は、その都度現状にあった計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて通院介助・送迎をしている。利用者の入院時は、面会を多く行い現状把握に努め、短期入院になるよう努めている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医になっている。職員は体調変化に特に気をつけ、かかりつけ医との連携で適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化について、医療を必要としない場合は、それぞれの家族・職員と相談しながら支援している。終末期の支援はまだ実施していない。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについては、職員会議で秘密保持の徹底を図っている。守秘義務を守ることを職員の入職時に契約書をかわしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた行動を支える介助・思いのままに行動することへの支援を大切にサービスをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を利用者の力を発揮できるように職員は介助しながら一緒に行っている。クリスマス・花見など手作りバイキング・弁当を作り楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を月・水・金と火・木・土と二つに振り分けているが、希望があれば毎日でも可能である。拒否する人がいる場合は、時間や声かけの工夫をしている。夏場は、夕方シャワーを利用する方もいる。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の役割があり、生活の共同生活が出来上がっており、張り合いをもって過ごしている。ドライブ・花見・そうめん流しへ出かけ、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ・お墓参りなど利用者の希望に添って外出している。天気の良い日は、敷地内でキャッチボールや日光浴をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設以来、日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は利用者の所在確認を徹底することを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難訓練を年1回夜間想定で行っている。非常食・飲料水などの備蓄の準備をしていない。	○	職員全員が、火災・地震等の災害時に、自信を持って避難誘導できるよう自主訓練を繰り返すことを希望します。災害時に、地域の協力を得られるよう働きかける事と非常用の備蓄の準備を望みます。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分を150ccづつ8回を目標に摂取してもらうように心がけ摂取したかの確認をしている。利用者の殆どは普通食であるが、状態や力に応じて刻み食・お粥にしている方もいる。職員は摂取量の確認をして記録している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、居間兼食堂でソファや食卓の椅子にかけて、過ごしやすいように家具の配置をしている。サンデッキには、開聞岳を眺めながら過ごせるように椅子が準備されている。台所からは料理の匂いがして、生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドのみ備え付けで、タンス等は利用者の持ち込みである。利用者個々の行動がしやすいように、ベッドやタンス等の位置を変えて居心地良く過ごせる工夫をしている。		